

ミクロ・マクロ経済学演習 復習問題(第13回)

2014.1.8 担当：河田

学籍番号

氏名

※ 1月14日(火)13時までに、河田研究室(514)まで提出すること。

※ 途中の式や思考過程はそのままにしておくこと。

1. ある国のマクロ経済が次のように示されている。

$$Y = C + I + G$$

$$C = 30 + 0.8(Y - T)$$

$$I = 50 - 5r$$

$$T = 0.2Y$$

$$L = 100 + 0.4Y - 10r$$

$$\frac{M}{P} = 150$$

$$Y_F = 300$$

Y : GDP, C : 消費, I : 投資, G : 政府支出, T : 租税, r : 利率(%)
L : 貨幣需要量, M : 名目貨幣供給量, P : 物価水準, Y_F : 完全雇用 GDP

ここで、政府支出を調整することにより完全雇用 GDP を達成したい。この場合の政府支出の水準として最も妥当なものはどれか。

ただし、物価水準 P は一定とする。

1 : 53

2 : 58

3 : 63

4 : 68

5 : 73

(労働基準監督官 2007)

2. マクロ経済モデルが次のように与えられている。

$$Y = C + I + G$$

$$C = 50 + 0.8(Y - T)$$

$$I = 70 - 2i$$

$$G = 20$$

$$T = 20$$

$$M = L$$

$$M = 30$$

$$L = 0.3Y - 9i + 30$$

$$\left[\begin{array}{l} Y: \text{国民所得}, C: \text{消費}, I: \text{投資}, G: \text{政府支出}, i: \text{利子率} \\ T: \text{租税}, M: \text{貨幣供給}, L: \text{貨幣需要} \end{array} \right]$$

このモデルにおいて、財政政策により政府支出を新たに 10 増加させることによって達成する国民所得水準を、金融政策によって達成しようとするとき、貨幣供給をいくら増やせばよいか。

なお、物価水準は一定であるとする。

- 1 : 39
- 2 : 42
- 3 : 45
- 4 : 48
- 5 : 51

(国家Ⅱ種 2009)

3. ある国のマクロ経済が次のように示されている。

$$Y = C + I + G$$

$$C = 10 + 0.6(Y - T)$$

$$I = 120 - i$$

$$G = 40$$

$$T = 20$$

$$M = L$$

$$M = 10$$

$$L = 0.1Y + 10 - i$$

ここで、 Y は国民所得、 C は民間消費、 I は民間投資、 G は政府支出、 T は租税、 i は利子率、 M は貨幣供給、 L は貨幣需要を表す。この経済において、政府支出が 40 から 50 に増加したとき、クラウディング・アウト効果によって生じる国民所得の減少分の大きさはいくらか。

- 1 : 2
- 2 : 4
- 3 : 5
- 4 : 7
- 5 : 9

(国家Ⅱ種 2010)